

## 会 議 概 要

1	会議名	令和3年度第1回安曇野市まち・ひと・しごと創生戦略有識者会議
2	日 時	令和3年7月30日(金) 13時30分～15時00分
3	会 場	安曇野市役所3階共用会議室306
4	出席者	木村会長、栗田委員、内田委員、宮澤委員、鳥居委員、内山委員、花形氏(代理出席)、木下委員、矢澤委員、岩本委員、浅川委員
5	市出席者	高嶋政策部長、丸山政策経営課長、大月課長補佐、米山主査、柳澤主査
6	公開・非公開の別	公開
7	会議概要作成年月日	令和3年7月30日(金)

## 協 議 事 項 等

### 1 開会

### 2 委嘱

高嶋政策部長から、宮澤委員、丸山委員(代理出席：花形氏)に委嘱書を交付。

### 3 会長挨拶

- ・総合戦略2期目がスタートして第1回目の進捗評価となる。新型コロナウイルス感染症の拡大により、地方創生どころではないという状況ではあるが、本質的には何も変わっていない。
- ・安曇野の特徴を生かすという視点で、本日は意見を交わしていただきたい。

### 4 協議事項

#### 議題1 安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

資料1、2及び補足資料について説明。

- ・第2期総合戦略へ移行したが、移行にあたり内閣府からの補助金について変更はあるか。
- ⇒1期と2期では変わっていない、地方創生交付金の予算規模は第1期と同じである。地方財政措置についても、同規模で措置されている。

(基本目標1について)

- ・雇用を生み出すにはベストな目標であると考えられる。評価Aとなっているのでこの調子で取り組んでいただきたい。
  - ・就労者数の割合は上がっているということだが、絶対数はどうなっているのか。
- ⇒細かな数字はすぐお示しできないが、第2期戦略策定時の基準値と比べると減少している。
- ・就労者数の割合は増えておりA評価となっているが、工業会として実感はあるか。
  - ・今のところ変化したという実感はない。
  - ・安曇野産業団地について、今後のスケジュール感はどのようになっているのか。

⇒既に造成は完了している。令和4年度から工場の建設を開始する予定と聞いている。  
・新たな産業団地を造成する場合、企業に対する意向確認は進んでいるのか。  
⇒担当課に確認する。

・テレワークセンターについて、どのような形態で運営を行っているのか。  
⇒穂高支所の一角をテレワークセンターとして利用している。登録希望者がテレワークセンター内で仕事をするという形態である。

・数値目標の農業就業者数について、認定農業者数だけでなく、親元就農や法人就農が増えている。親元就農や法人就農も統計に入れればより現状を把握できるのではないか。  
⇒新規就農者数という KPI は設定しているが、就農形態までは把握できていない。

(基本目標2について)

・子どもたちや若い世代が住みやすいように、市には PR を頑張ってもらいたい。

・外部への情報発信が不足していると思われる。東京では転入超過が進んでおり、60才以上の人が増えている。そのような人たちをターゲットに、いかに大きい母体から移住を促すかという視点による施策を重視してほしい。アンテナショップなどを出店するのもよいと思われる。

・武蔵野市吉祥寺の「麦わら帽子」というアンテナショップに出店はしているが、広報が効果的に行えていないためか、知らない人は多いと思われる。

⇒東京、大阪、名古屋に県が移住に関する事務所を構えており、担当者から安曇野の人気は高まっており、相談件数も増えていると聞いている。

・相談数だけ増えても評価自体は D である。1つ前のフェーズの数値を指標として設定してみてはどうか。結婚支援も成約数だけでなく、参加者数でも判断すべきではないか。

・移住を促して人口を増加させるというのはよいと思うが、リタイア組をどんどん呼んでも財政負担が増すばかりの構造になる。単に人口を増やせばよいということではない。

・安曇野市のイメージはブランドとして浸透しているが、数字に結び付いていない。うまくいっている例として、南箕輪村などの取り組みが参考になる。ブランドを活かしたきめ細かな施策が必要であると考えられる。

・イメージは良いが、そこからどうするかが課題である。

⇒子育て支援環境の良さなど、どのように市外の人へ伝えていくかは今まで手薄であったと思われる。広報の技術的な取り組みにもなると思うが、他自治体の取り組みを参考にし、安曇野市に合った広報を行っていくことが重要と感じている。

・安曇野市の魅力は景観の豊かさである。魅力があるのに外部に発信できていない点が課題だ。子育てを行うにあたり、安曇野市で子育てしてよかったと思えるような施策を行う必要がある。また、引きこもり支援なども市が力強く推進していくこと

も重要ではないか。

⇒子育て環境の PR について、昨年の 11 月から地域おこし協力隊を採用し、安曇野市ならではの自然保育を PR している。来年度は進捗について報告できる点があれば報告させていただく。

・ 1 年単位で結果や成果は出るのか。

⇒絶対とは言えないが、1 年単位でも一定の成果は表れると考えている。

- ・ 地元の人が SNS で地元の良さを発信できるような流れを作れば面白いと思われる。
- ・ 市民が行う SNS の発信に行政を絡ませるのは、スピード感の面からも得策ではない。バックアップ程度にとどめたほうが良い。
- ・ 行政には、流れや雰囲気づくりを担ってもらえればと考えている。

(基本目標 3 について)

・ 放課後児童クラブについて、現状は 4 年生までが対象である。5～6 年生の受け入れ拡大も必要だが、その年代で不要な子もいる。上の学年まで拡充するよりも、4 年生までの受け入れを充実させるほうがよいのでは。

⇒担当課に伝える。

・ 出産に対する経済的負担の軽減について、具体的にどのようなことを行っているか。  
⇒この場で全てはお伝え出来ないが、不妊治療に対する助成などは行っている。また、資料 19、21 ページに具体的な施策を記載しているのでご確認いただきたい。

・ 子育ての負担が母親に集中することが多いが、男性側も取り組むことという視点が必要であり、そのような働きかけが必要ではないか。

⇒市で個別に計画を立て推進をしている。地方ほどそのような傾向が強いと聞く。

・ 社員が育休・産休に入ると、貴重な人材が一時的に離れることになる。託児施設がある企業もあるが、中小企業での導入は難しい。託児施設の設置補助について、人材派遣や金銭的補助が可能かどうか聞きたい。

⇒今の時点でそのような動きはないと思われる。担当課に確認する。

・ このような話は今出てきた話ではない。できる部分とできない部分は当然あるが、その中でできる部分があれば検討してほしい。

(基本目標 4 について)

・ 数値目標が漠然としている。評価は A だが細部では問題がある。プラスであって当然の数値目標ではないか。

・ 安曇野市民でない人の意見があれば聞きたい。

⇒現状、そのようなデータはない。

・ 松本市のメリットとして挙げられるのは、まちのコンパクトさであり、定住する人が多い要因として、まちがコンパクトである点が挙げられる。

・ 安曇野市ではコンパクトシティの実現が難しい。これは、町村合併を行ったことに

起因している。交通網の整備も難しい。  
⇒市の立地適正化計画では、もともとの旧町村のエリアを考慮しており、市内5か所に拠点を分散することを想定している。

- ・人口差も大きい中、全てを同列に扱うのはお金がかかり非効率さを感じる。

## 議題2 安曇野市総合計画との統合について

資料「総合計画と総合戦略の統合案について」に沿って説明。

- ・方針に異議なし。事務局に検討を進めてもらい、報告を待つこととする。

## 5 閉会

(以 上)